

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071800702		
法人名	有限会社 ケアサービス九州		
事業所名	ふぁみりー菟田		
所在地	福岡県飯塚市菟田西3-9-10		
自己評価作成日	平成26年8月31日	評価結果確定日	平成26年10月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念のもと家庭的なホームを目指し頑張っています。地域の行事・会合等には積極的に参加をしています。また、ホームの催しは自治会の協力で回覧を活用させていただいています。今年7月に「ケアカフェ菟田」と銘打って認知症カフェを開催いたしました。初の試みでしたが多数の参加で盛り上がりました。改善点は多々ありますが、地域の相談場所、拠り所になればと思っています。玄関はいつも大きく開け放たれています。お気軽においでください。2年前からおこなっている職員間での挨拶は、少しでも家を意識して頂けたらとの思いで始めました。今では入居者様から「行ってらっしゃい」と送り出され「お帰り」と迎えて頂いています。これからも安心と満足の日々を家庭的雰囲気の中で支援できるよう、もっともっと努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念や運営方針に加え、より具体的に取り組みたいと今回は「ほほほ言葉やさそう」を月間目標に掲げ、入居者の人格の尊重に努めている。外出傾向の入居者を見守りと声掛けで支援することを十分に話し合い、数年前から玄関をオープンにしているが、センサーを設置し、リスクの回避に努めるなど、職員の意識改革は進みつつある。子ども会の廃品回収の協力や敬老会等の地域行事へ参加を継続し、毎年、恒例となったホームの秋祭りは、地域の方たちの楽しみになっている。市内で初めての「認知症カフェ」を開催した際には、地域包括支援センターの職員が「何でも相談コーナー」を担当し、近隣の方から駐車場の申し出や車の誘導をしていただく等の協力を得ることができた。管理者は市地域密着型サービス事業所協議会の運営に参加したり、市民後見人制度を受講するなど、同業者全体の向上や地域の相談場所としてホームが存在していく事を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

 ユニット/
事業所名 ふあみりー菰田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りで、その日のリーダーを中心に「理念」の唱和をする。 また、月目標をかかげ支援の統一をはかっている	日々のケアの根底に理念を意識できるように、毎日唱和して支援に励んでいる。ケア方針、基本理念に基づいてどのように関わったかを、介護記録に記載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのイベントは積極的に参加している。ホーム内での行事は 回覧でお知らせお誘いする。秋祭りは、多数の参加で盛り上がり、福祉委員さん、地域の方々の踊りは定例となっている。	自治会に加入し、子ども会の廃品回収に協力したり、敬老会等の地域行事に参加している。市内で最初の取り組みとなった「認知症カフェ」開催の折には、駐車場の便宜や車の誘導等、近隣の方から積極的な協力があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして地域の公民館で勉強会の担当や地区ネットワークに参加している。認知症カフェを開催。地域の拠り所となるいつでも集える場所づくりに向け努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームで起きたことは、赤裸々に報告している。意見交換は活発に行われ、情報の共有、良いホーム作りのきっかけの場になっている。今回は「認知症カフェ」の開催にあたり意見・アドバイスをいただいた。	曜日を定例化し、家族や行政職員等の適切なメンバーで開催され、入居者の様子や運営状況を報告し、参加者の意見をいただいている。校区内同業者が相互の会議に参加し、外出に適した場所等の情報の共有や意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの担当職員とは随時意見交換は行っている。「認知症カフェ」では「なんでも相談コーナー」を担当して頂いた。市職員とは諸手続きの相談ごとで指導頂いている	管理者は、市地域密着型サービス事業所の協議会に加入し、部会では各事業所に運営推進会議に関するアンケートを取り、向上に努めている。日頃から地域包括支援センターの職員と連携したり、介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠なし。日中はいつも大きく開けている。 「身体拘束廃止委員会」では、身体拘束「0」の取り組みを行う。 身体拘束「0」更新中。 年間研修(必須) で全職員学びあう。	ホーム内の研修で学び合い、制止や拒否の言葉が職員から出ないように気をつけている。ホームは道路に面しているが、玄関は日中、施錠せずに見守りと言葉かけで対応している。不安がる職員もいたが、意識改革が大切と、数年前から取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の支援の中で虐待となる言葉づかい、行為の見過ごしはないか気を配り注意、指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	飯塚市、市民後見人養成講座<実務編>(25年11月～26年2月)に参加学ぶことができた。第1期生として修了証書は頂いたが、残念ながら活用には至っていない。	現在、制度や事業の活用している入居者はない。パンフレットを整備し、いつでも相談や関係部署と連携が取れるようにしている。	是非、職員研修で日常生活自立支援事業と成年後見制度の違いを学習され、多彩な家族の状況に対処されるようお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族への説明は納得して頂けるまで十分におこなっている。利用者様に至っては家族の希望で対応する事が多い。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望を早急に対処するため、玄関に<ご意見箱>を設置している。活用されていない為、運営推進会議、家族会、懇談会等々、ホームに来られた折にお話が伺えるよう声掛けをしている。	ホームの秋祭りに合わせて、家族会を開催している。毎月のホーム便りで、行事や運営推進会議の開催、新規入居者の紹介等をお知らせしている。家族訪問時に入居者の状況や家族の要望等を話し合い、布パンツを希望する家族に下着の撰択や紙パンツの使用等を提案し、了解を得ている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見交換を行う。個々の職員とは食をともし要望等聞いている。アンケートも実施。職員の声を傾聴する時間を多くとるようにしている。	管理者が実施したアンケートでは、要望は特になかったが、毎月のミーティングでは、提案に対して率直な意見が多く出されている。なかでも玄関を施錠せず広くオープンにする提案には、職員から不安の声が上がり、十分な意見交換後に実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の面談や管理者を通じて職員の個性等を十分に把握し、より良く働きやすい環境作りに積極的に取り組んでいる。昨年は2事業所合同勉強会で全5回出席者には食事券が贈られるている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、性別・年齢の制限はない。地域においても個々の能力が十分に果たせるよう勤務面で対処している。また、未就学児・低学年等子育て真っ只中の職員に対しても家庭を大切にすることで優先できる勤務体制をとっている。	求人誌やハローワークを通じて職員を募集している。開設以来や産休明けの職員等、長期の就労者が多い。希望する外部研修の参加を支援したり、子育て中の職員をシフトで考慮している。夜勤専門職員は、一日を通じて入居者の様子を把握してほしいので、現在は雇用していない。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年間研修計画に必須研修として入れ込んでいる。自治会開催の「人権教育」にも毎年参加。	理念に入居者の尊厳を謳い、職員の意識改革のために、人権教育に力を注いでいる。日々の言葉かけにも注意を払い、気になる言葉はその都度、管理者やリーダーが注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人での研修は半期に1回希望出来、受講料、交通費は事業所負担。事業所からの研修は平等に受けられるように人選する。いずれも出勤扱い。事業所内勉強会は全職員交代で担当、発表の場を作る。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県・市の協議会に加入。研修は積極的に参加。昨年は会で知り合ったグループホームと全職員2日間ずつの施設交流を行った。また、地域の3施設とはお互いの運営推進会議のメンバーとして交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に誤りがないよう2人体制で状態の把握を行っている。また、ホーム見学をして頂き納得の上での入居を進めている。入居時は記録を詳細にすることで支援の統一と生活歴が見えてくる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望に至るまでの家族の苦労や努力を傾聴。ホームと家族が同じ意識を持ち利用者様が安心して生活ができる支援作りをしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の困りごとと心配ごとの解決のための支援を心がけている。また、介護保険外のサービス利用やインフォーマルの支援も視野に入れ対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「もちつ持たれず」の関係と、本人様の出来ること探し、自立の妨げにならない支援を心がけています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の参加、協力を求め了解を頂くこともあるが、ご家族の思いも十分に聴き、ゆとりをもって入居者様との関係が持続できるよう家族の事情に応じた配慮をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人との関係を大切にするためホーム内は自由に使用して頂けるよう配慮している。本人様のお誕生日にはご家族も一緒にお祝いをして頂けるよう計画を立てる。	近隣の馴染みの理髪店に通う入居者が2名いる。友人や知人の訪問の際は、居室で寛いでいただき、ホールで開いている入居者の誕生日のお祝いには家族に参加していただいている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相撲・高校野球以外は日中はテレビをつけない。レクリエーションとして昔懐かしい時代劇のDVDを観賞することはあるが、基本、入居様同士の会話や職員との交わりを大切にしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大半が亡くなられての退去であるため関係が薄れて行っているのが実情ですが、100歳で亡くなられ退去されたご家族から先日、相談がありました。忘れられてない。と嬉しくなりました。秋祭りもご招待いたしました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活歴を大切にしている支援を心掛けている。	介護記録に入居者との対話方式を取り入れ、思いの把握がより容易にできるように工夫している。お風呂が好きで毎日入りたいことを表現できない新規入居者の意向を把握し、毎日の入浴が可能になっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式をとりにいれご本人やご家族から今までの生活状況を詳細に伺いアセスメントしている。その内容を全職員が把握できるようミーティング・連絡ノートを活用伝えている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を基本に、出来ること探しをする。また、本人様の言葉・行動を介護記録に残し、その日の心身の状態把握と、支援の統一をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎日チェックしている。ケアカンファレンスではその成果と新しい課題を協議、分析する。利用者様・ご家族・職員の意見・要望をまとめ介護計画に反映するよう努めている。	ケアカンファレンスに全職員が参加して、ケアの実践状況や情報を共有している。毎日、職員がモニタリングを行うことで計画の見直しや提案が検討されやすく、現状に即した介護計画の作成に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の気づき等は日々の業務日誌・介護記録に記録している。また、職員に対しては支援で理解が必要なことや提案等は連絡ノートに書き出勤時目をとした上業務に入ることまで支援の統一をはかる。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が何らかの事情で病院受診が厳しい場合は職員が付き添っている。その他、柔軟な対応を心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのいきいきサロンに参加。しっかり人気者になった入居者様も。 また、子供会の廃品回収では子供に交り汗をかき奮闘する姿も見られます。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人様・ご家族の思いを確認します。現在往診は、内科診察(月2)・眼科診察(月1)・歯科(週1) 重篤時は救急搬送できるよう救急病院との連携体制もできています。	日に1名の訪問診療で、医師が毎日見えるため、相談がしやすい。他科や専門医受診は家族が同行しているが、職員が同行する場合は、家族に報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1(木)に看護師による訪問あり。時間をかけお一人おひとりの状態に応じ適切な処置をされる。ホームとの連携は密に取り合っている。かかりつけ医との連携も良い。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在、入院者はいない。近隣の病院には時折挨拶に行っている。入居の紹介や問い合わせも来ている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化・看取りについてご家族の意向を伺っている。病院・ご家族・ホームの支援に対する共有を図るうえで同意書を提出されているご家族もある。	現在、同意書を提出されている入居者が多いが、状況に応じてその都度、医師を交えた話し合いを行っている。長く寝込むことなく看取りに至る入居者がほとんどで、他の入居者もごく自然に「仲良くしてくれてありがとう」と見送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成。年間研修計画での必須研修として学んでいる。現在、窒息・誤嚥等、事故発生に備えて朝礼後、吸引器の取り扱い方を実践している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災・避難・通報訓練を行っている。予告なしで行っているため、緊張感があり良い訓練になります。また、非常食の賞味期限の点検も定期的に行っている。	年に2回、避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練では、入居者には訓練開始5分前にお知らせするなど、ベッドで臥床した状況で訓練を行っている。玄関近くのロッカーの上に、非常時持出し用の備品が設置され、備蓄品の水や食料の賞味期限が明記されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修計画の中で「プライバシー保護の取り組み」を必須研修として学んでいる。プライバシー侵害とみられる行動があればその都度、注意指導を行っている。	呼称については家族から特別な希望はなく、名字で呼んでいる。男性入居者が4名となり、時には興奮状態になることもあり、月間目標に「ほわほわ言葉をさがそう」を掲げ、入居者ひとりひとりが言葉で傷つくことのないよう、心地よく過ごせる言葉さがしで入居者の人格の尊重に努めている。	理念に添って、入居者同士が人としての尊厳を守り合えるように、支援する方法の話し合いに期待します。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居間もない方がたから「お風呂に毎日入りたい」「毎日お漬物が欲しい」等々の声があがった。可能な限り本人様の気持ちを尊重できるよう支援に努めている。現在、実行中。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の(食事・お茶・入浴)日課はある程度決めているが、個々のペースを大切に希望に沿う支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは、基本本人様に選んでいただくようにしている。一日数回着替えられる方、毎日お化粧うをされる方等おられる中、全く関心のない方もおられる。ご自身で身だしなみは整えて頂くよう声掛けは行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事作りは厳しいが、味見などして頂く。皮むき、筋とり、盛りつけ、テーブル拭き等準備を手伝って頂いている。食事は職員も一緒にテーブルを囲み同じものを食べます。食後の下膳はそれぞれが行います。	食事は入居者の最大の楽しみであると全職員が理解し、毎日のメニューを工夫している。焼肉や回転寿司の夕食を楽しんだり、個別の夕食も支援している。主治医からミキサー食と指示が出て、普通食の希望が本人や家族からあれば、工夫して対応しているため、全量摂取の入居者がほとんどである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量のチェック・記録は欠かしません。水分不足、栄養状態の把握には十分配慮しています。体調不調時は高カロリー飲料や調理方法、材料に工夫を凝らし提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせ、声掛け、誘導で口腔ケアを実施。また、希望者には週1での歯科往診でケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁があるからとむやみにおむつへの移行はしない。トイレでの排泄を心がけている。また、チェック表にて排泄のパターンを把握、支援している。	トイレでの排泄を大切に支援している。自宅では紙パンツを使用していた入居者が、入居後暫くはパッド使用で布パンツになったり、不安から頻繁な尿意を訴えていた新規入居者は、職員の根気強い排泄支援によって、落ち着いた生活が送れるようになっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行う。また、水分や食事に気を配り個々のパターンを把握支援に努めている。困難な場合は、医師の指示を受け服薬で対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の要望があればいつでも入浴出来る体制は整っている。現在、毎日入浴者1名。曜日指定者が3名いる。後の方は、その日の体調を伺い声掛けにて支援している。	週3回の入浴支援を基本に、本人の希望や体調に合わせて支援している。職員の配置を考慮して、毎日入浴される方は午前中に入浴を支援したり、拒否のある方には、家族の了解を得て週2回は入浴できるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車いす使用者(2名)に関しては、昼食後の1時間程度のベッドでの臥床の声掛けをしている(足の浮腫軽減のため)。他の方はソファで傾眠されたり畳の間でゴロンとなられたり自由に過ごされている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師の管理のもと行っている。また、服薬ミス防止のため管理・服薬には3回のチェックを経て支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみ、嗜好品を理解支援している。職員は、個々の出来ること探にも気を配っています。自立支援がモットーです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	カラオケ・温泉・食事・ドライブと一度に楽しめる場所に全員で出かけ賑わっています。個々では家族同伴での夕食やお誕生日会での食事に招待。少人数での夕食も喜ばれます。地域の「いきいきサロン」にも参加しています。	近隣は公園や幼稚園、電車が見えたり、川がある散歩コースがあり、気候の良い時は出かけている。計画に沿った外出もあるが、多くは「行きたいね」と始まり、即時対応で少人数の夕食やドライブに出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物の際には、出来る限りご自分で選択、支払いをされている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の対応はしている。携帯の使用者もいる。手紙は年賀状を書くお手伝いぐらいです。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居食堂と居間がワンフロアになっていて、どの居室からも集いやすくなっているため、殆どフロアで過ごされている。畳の間やソファでくつろがれている。	リビングの壁には入居者の笑顔の写真が飾られている。テーブルを3つ並べ、入居者の状態や相性を考慮して座席を決めている。畳の間はボランティアの演奏があったり、行事の際に大いに活用されている。トイレ、洗面所、浴室と動線がスムーズで、空気清浄機等が置かれ、匂いや音に配慮が行き届いている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて、ご家族や知人も気兼ねなく過ごして頂けるよう配慮している。職員は個々の部屋には必ず声掛けをして入る。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、ご家族の思い思いの部屋作りが出来ている。家具、装飾などは危険でない限り本人様の意思を尊重しています。(仏壇の灯明は電池に変えて頂いている)	フローリングと畳敷きの居室が設けられ、色違いのカーテンが掛り、全入居者がベッドを使用している。自宅から家具やテレビを持参されたり、仏壇を持ち込まれている。将棋盤やお花、壁にずらっと飾られた野球帽など、それぞれの趣味が伺われる居室づくりがある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー作りと手すりをつけている。テーブル脇には杖の置き場所を設け安全を確保。		